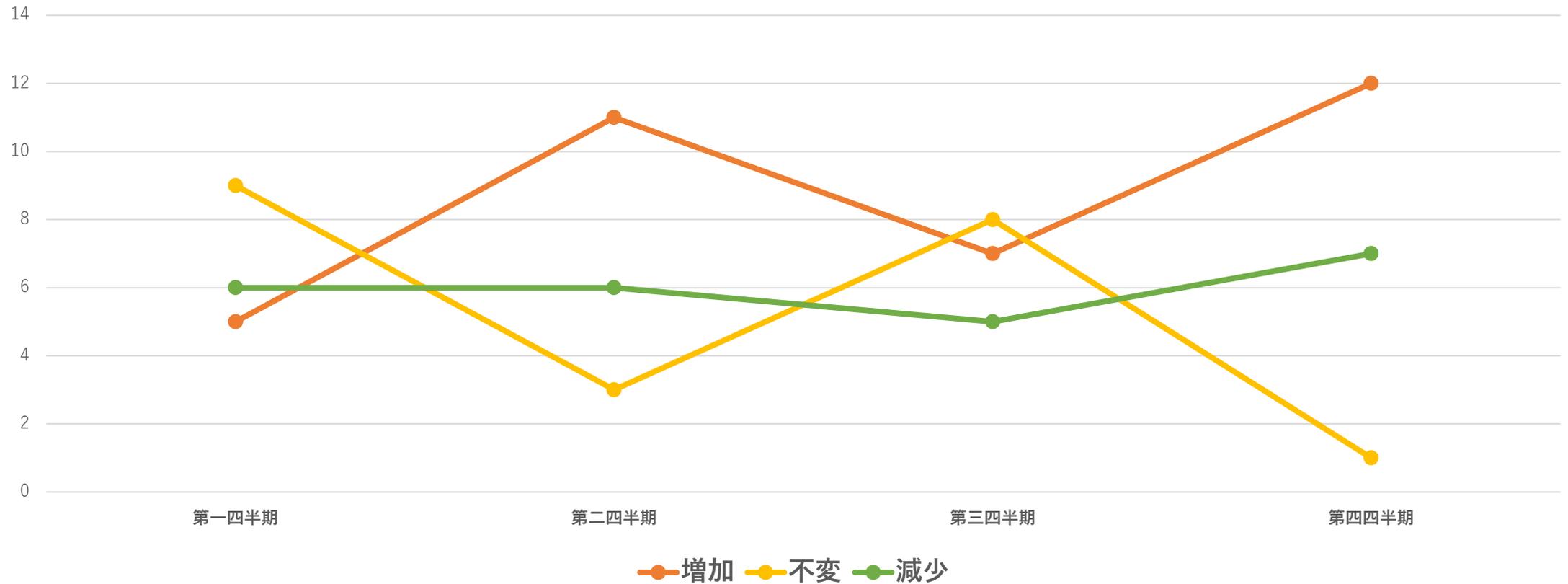


令和 6 年度景気動向調査

(総評)

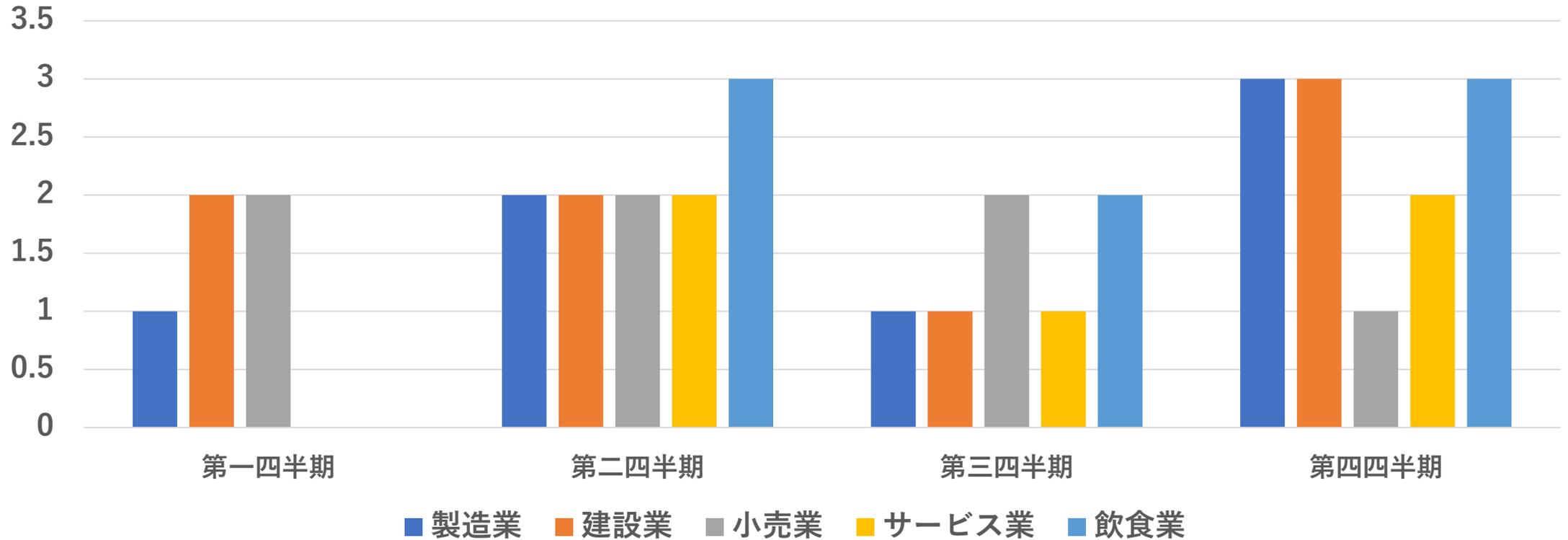
1-① 売上高について

事業所数推移（前年同期比売上高）



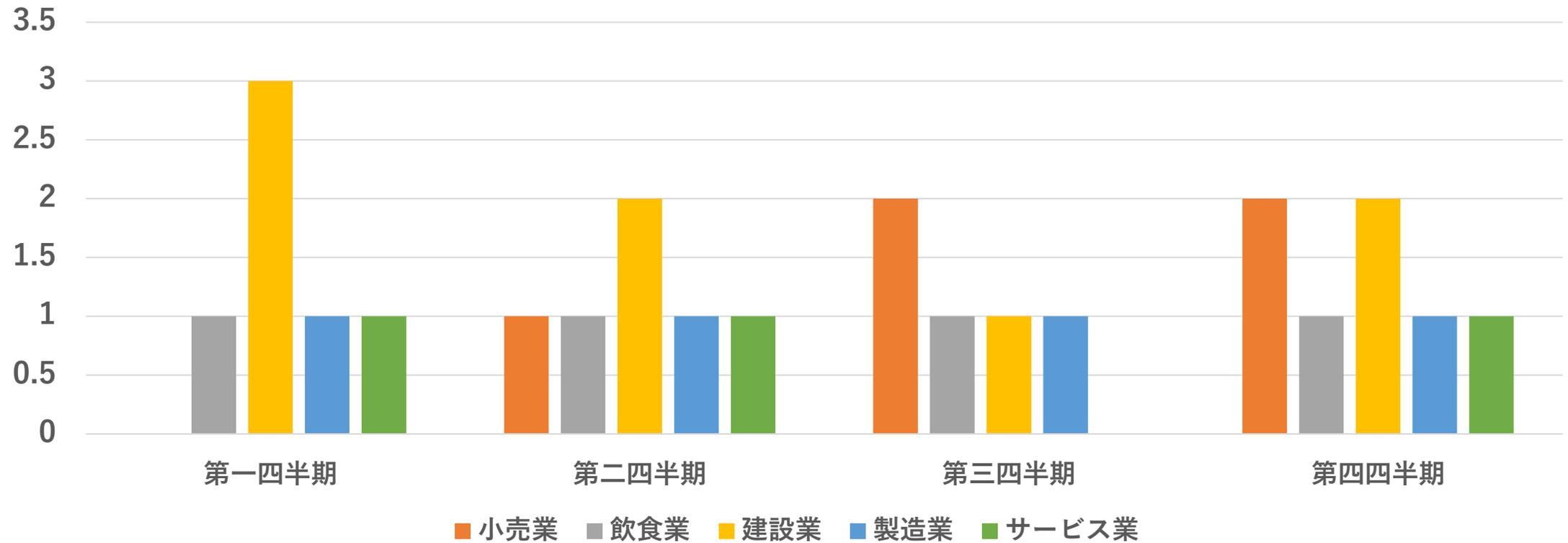
1-② 売上高について

売上増加事業所数推移（前年同期比）



1-③ 売上高について

売上減少事業所数推移（前年同期比）

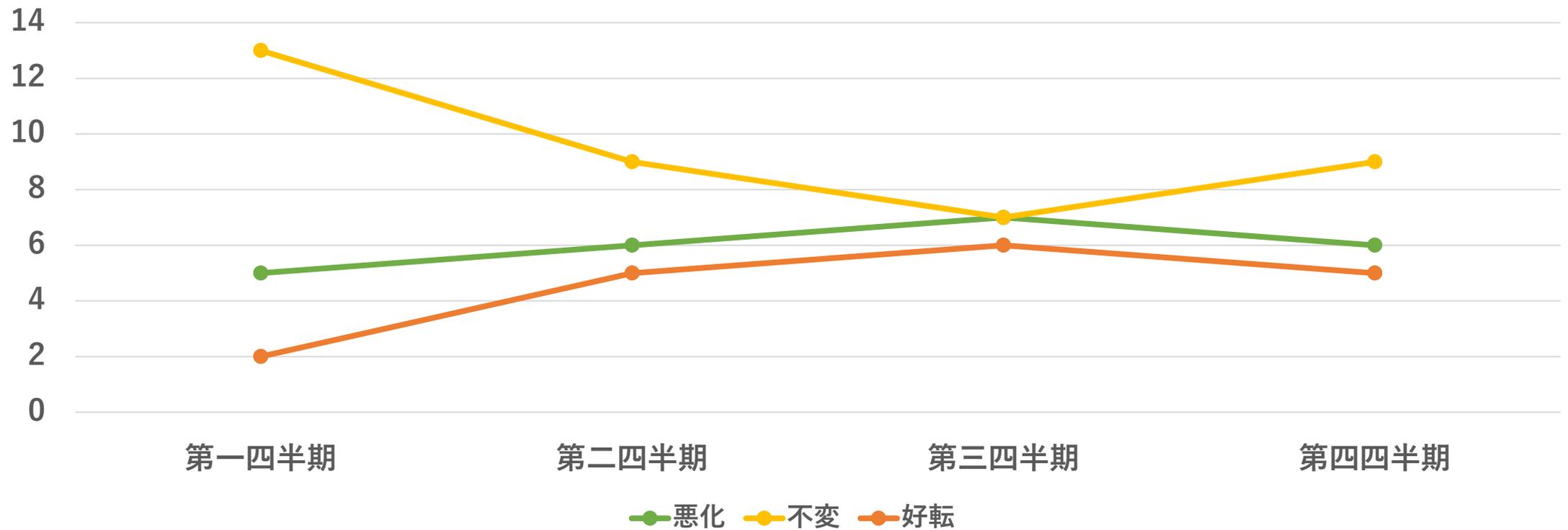


1 - ④ 売上高について（総評）

- 本年は前年と比較して、売上高が「不変」若しくは「増加」と回答した事業者が各期で70%程度を占める結果となり、コロナ禍から脱却した昨年から大きく減少に転じることはなく、現状維持や更なる増収となった事業者が多く見られた。
- 業種別に見ると、どの業種も満遍なく増収となっている一方で、建設業が特に減収となった事業所が多く、新築物件の受注減や公共工事の減少などが影響したと考えられる。

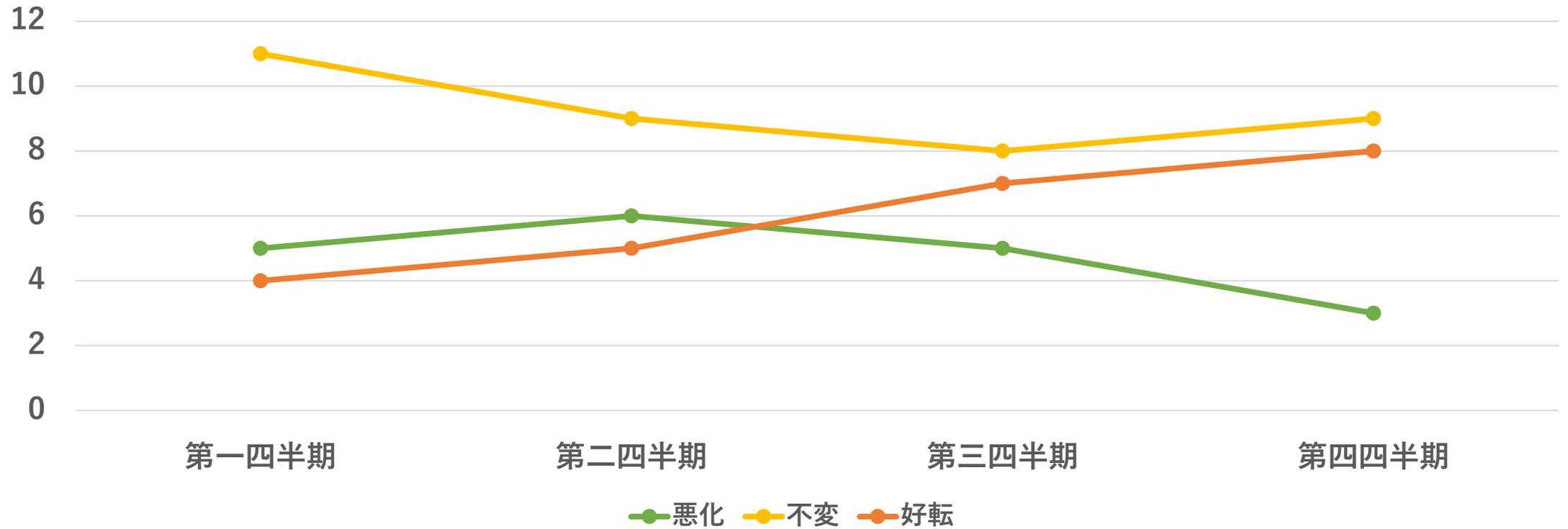
2 - ① 経常利益及び業況等について

経常利益推移（前年同期比）



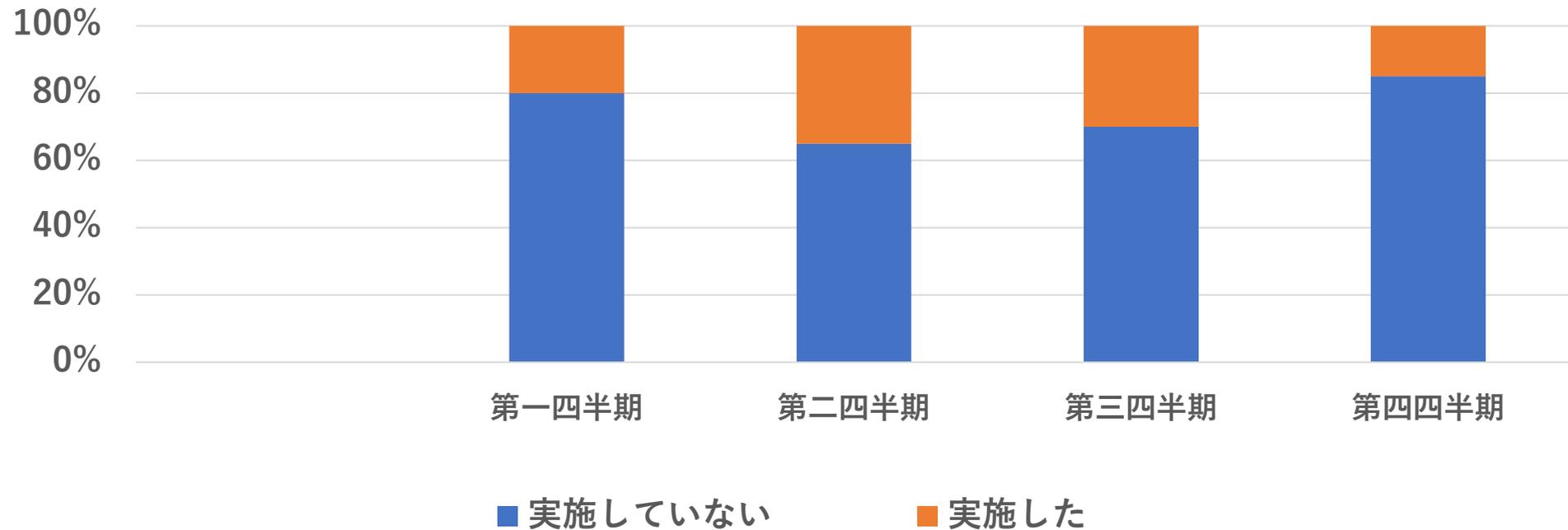
2 - ② 経常利益及び業況等について

自社業況推移（前年同期比）



2 - ② 経常利益及び業況等について

設備投資実施状況



2 - ③ 経常利益及び業況等について（総評）

- 経常利益の状況は期首から徐々に好転する事業所数が増えてきており、各事業所が物価高騰に合わせた価格転嫁や経費節減によって利益確保に努めてきたことが分かります。
- 業況については、好転したと回答した事業所数が増加を続けており、総合的に見て経営状態が比較的安定してきているものと思われます。
- 設備投資の件数については、一年を通して大きな変化は無く、一定して全体の3割前後の事業所が每期設備投資を行う結果となりました。

3 まとめ

令和6年度は、ロシア・ウクライナ戦争に起因する長期にわたる原材料価格の高騰や高止まりが続き、事業者の皆さまに置かれましては、利益確保のための価格転嫁や経費節減が大きな課題となった年であったと思います。

また、仕入価格の上昇やコロナ資金の返済開始等による資金繰りの悪化、人材不足による事業の停滞等、多様な経営課題も依然として山積しています。

商工会では、これらの状況を踏まえながら、来年度も国や県・町の支援施策の活用や、新たな経営の確立等、様々な経営課題解決に取り組んで参りますので、引き続きよろしくお願い致します。

